

電動ダブルスリップポイント N-PXR140-15 (F) / N-PXL140-15 (F) 共通説明書

Electric Double Slip Points N-PXR 140-15 (F)
Electric Double Slip Points N-PXL 140-15 (F)

このたびは、トミックス製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用になる前に、この取り扱い説明書を十分にお読みいただき、ご理解のうえ正しくご使用ください。

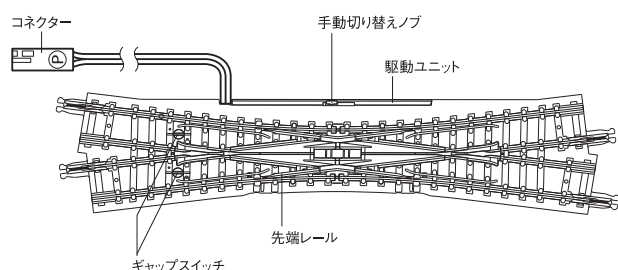
セット内容と各部の名称

●セット内容

ポイントレール本体	1個
ダミーポイントモーターランナー	1個
ダミーポイントモーター台	2個

●ポイントN各部の名称

図1



※図はPXR140-15ですが、PXLも同様です。

模型取り扱い上のお願い

●使用上のご注意

- 電動ポイントNの駆動には必ず専用のネクスト・ネオシリーズパワーユニットN (※1) 及びポイントコントロールボックスNをご使用ください。ネクスト・ネオシリーズのポイントNは、駆動に必要な分だけ電気をチャージして使用する新方式を採用しているため、それ以外の電源をご使用になると、ポイントを破損もしくはコイルをいため、著しく能力が低下する場合があります。
※1.従来のトミックスパワーユニット (品番5001、5006、5040) + ネクスト・ネオシリーズコンバーターボックスN (品番5500) の組み合わせでもご使用になれます。
- ポイントコントロールボックスN-Wで電動ダブルスリップポイントを含むポイント2個を同時に切り替えしないでください。動作不良の原因になります。
- 先端レールを直接指などで動かしたり、無理な力を加えたりしないでください。変形して機能が損なわれるおそれがあります。
- ポイントコントロールボックスNからコードを抜くときは、必ずコネクタ部を持って抜いてください。コードを持って抜くと断線のおそれがあります。
- 湿気やホコリの多い場所、暖房器具の近くなど温度の高くなる所でのご使用や保管は、模型に悪い影響を与えますのでおやめください。
- 注油しないでください。また、ボンドや水分やゴミ、チリなどがポイントにはいらないようご注意ください。作動不良や通電不良の原因となります。
- 無理な力を加えて曲げたり、落したり、上に重いものをのせないでください。故障の原因となります。
- ポイントNの駆動には永久磁石を使用していますので、鉄板など磁性体の近くでの使用はお避けください。動作が不安定になる場合があります。
- ポイントN用駆動ユニットは必要時以外、むやみに着脱しないでください。故障の原因となります。
- 固定式レイアウトでご使用の場合: 駆動ユニット付近にバラストやストラクチャーなどを配置する場合は、駆動ユニットが交換できるよう、取り外しを考慮の上で配置してください。
- 塗装される場合: 駆動ユニット及びポイント作動箇所塗料がかからないように注意してください。動きがぶくなるおそれがあります。また、先端レールは切り替わる側のレールとの接触により通電しますので、接触する部分に塗料をかけないよう注意してください。

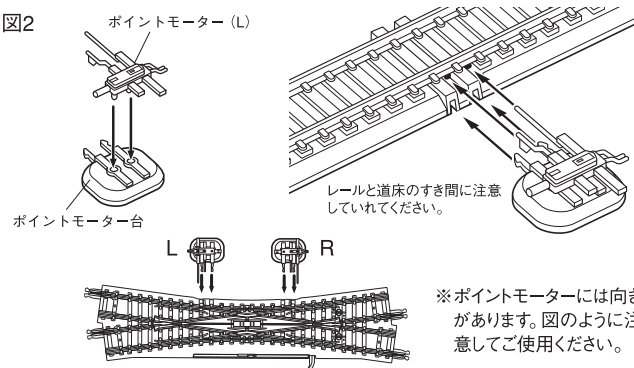
●ポイントモーターの取り付け

ポイントモーターはポイントに取り付ける方向により、LとRの2タイプがあります。図2を参考にお取り付けください。

※ポイントモーターを取り付けなくても、機能に問題はありません。

- ランナーからLまたはRのポイントモーターをニッパー等できれいにカットします。
- ポイントモーターをポイントモーター台に差し込みます。
- 図2を参照して、ポイントレールに横から差し込みます。

図2

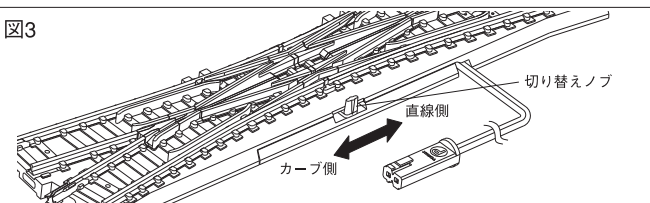


※ポイントモーターには向きがあります。図のように注意してご使用ください。

●ポイントを手動で切り替える場合

切り替えノブを指でスライドすることにより、ポイントを切り替えることができます。

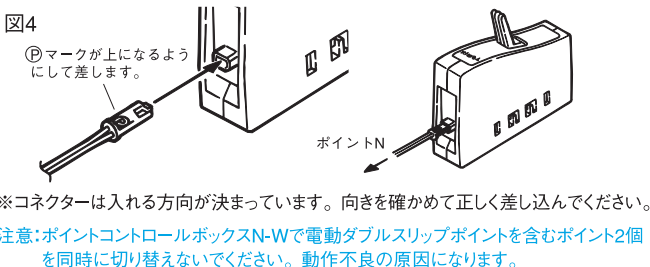
図3



●配線

パワーユニットNの電源スイッチがOFFになっているのを確かめ、ポイントから出ているコードの先のコネクタをポイントコントロールボックスNのコネクタに差し込みます。

図4

※コネクタは入れる方向が決まっています。向きを確かめて正しく差し込んでください。
注意: ポイントコントロールボックスN-Wで電動ダブルスリップポイントを含むポイント2個を同時に切り替えしないでください。動作不良の原因になります。

●ポイントの切り替え

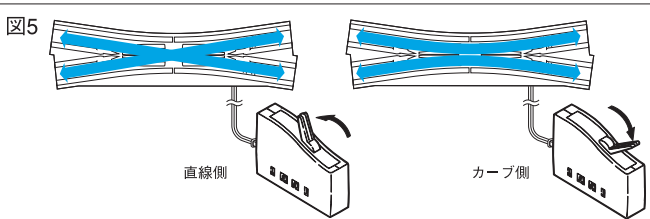
ポイントの配線が終わったら、必ずリセット操作をしてください。リセット操作をしないと、ポイントとポイントコントロールボックスNの切り替え方向が一致しない場合があります。

リセット操作

- 正しく配線されているのを確認し、パワーユニットNの電源をONにします。
- 切り替えは必ず1秒以上の間隔をあけ、ポイントコントロールボックスNのレバーを操作して2回 (1往復) 切り替えます。 (1回目の切り替えのときはポイントが切り替わらない場合がありますが、異常ではありません。)
- ポイントが正しく切り替わっていることを確認します。ポイントコントロールボックスNのレバーが奥になっているときが直線側、手前に倒した場合がカーブ側です。 (図5)

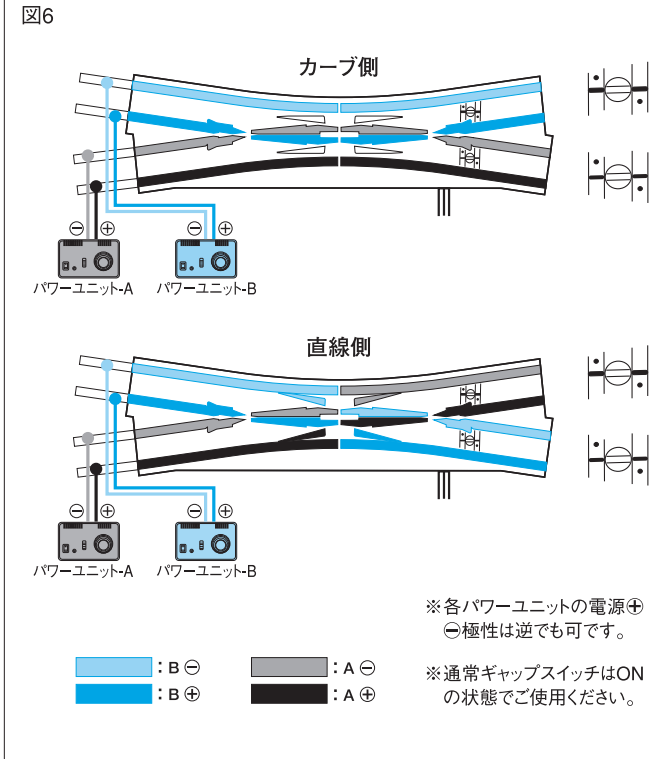
※配線した状態でポイントを手動で切り替えても壊れることはありませんが、コントロールボックスNの切り替え方向と一致しない場合があります。その場合は再度、リセット操作を行ってください。

図5

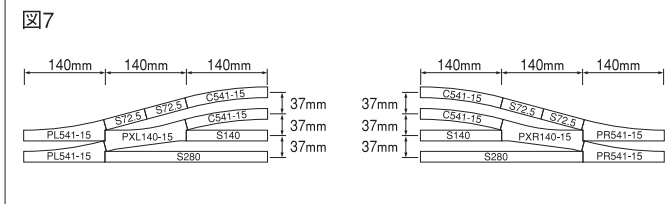


●ポイントの切り替えと通電について

図6はポイント方向と電流の関係を示しています。完全選択式になっており、カーブ側、直線側のどちらに切り替えてもパワーユニットA・Bの電流がそれぞれ完全に独立して流れます。



●ポイント使用時の寸法



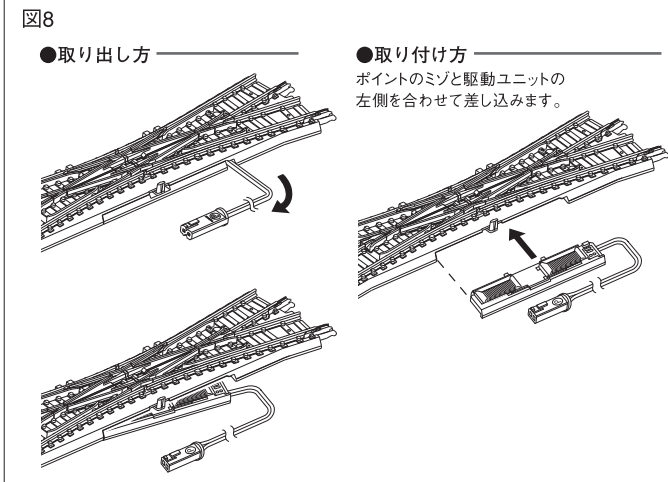
●延長コードについて

レイアウトによりポイントのコードがポイントコントロールボックスNに届かない場合は、延長コード(別売:品番5814)をお使いください。なお、このとき継ぎ足す延長コードは2本以内としてください。延長コード1本の長さは、1.5mです。

●ポイントN用駆動ユニットの交換方法

駆動ユニットを交換する場合は、ポイントN用駆動ユニット(F)(品番0107)をお求めになり図8を参照して交換してください。ポイントが固定されていない場合は、駆動ユニット裏面の溝にツメを引っかけて駆動ユニットを取り出します。レイアウトに固定されている場合、コードを引っ張って駆動ユニットを取り外します。

注意:切り替えノブは絶対に引っ張らないでください。切り替えノブを引っ張っても駆動ユニットは外れません。交換時には、ポイントN用駆動ユニットのコイル部及びコイル線を傷つけないようにご注意ください。



●消費電流

電動ポイントNの消費電流=150mA

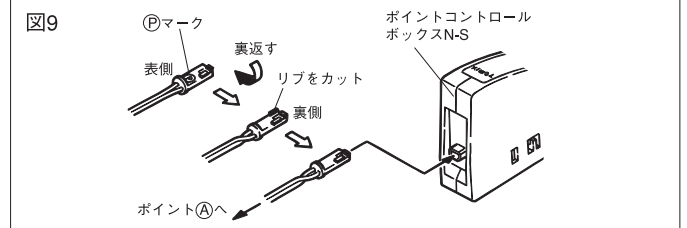
※消費電流の合計計算をする場合、電動ポイントNは個数に関係なく150mAとなります。

上級者向け

●コネクター逆差しの使い方

電動ポイントNのコネクターは、簡単な加工により逆差し(逆極性)でも使える構造となっています。逆差しを行うと、ポイントコントロールボックスNのレバーの位置とポイントNの切り替わり方向が逆になります。レールレイアウト上ポイントレールの向きを逆にして使用した場合にポイント方向とレバーの位置を合わせることでよりスムーズな運転ができます。

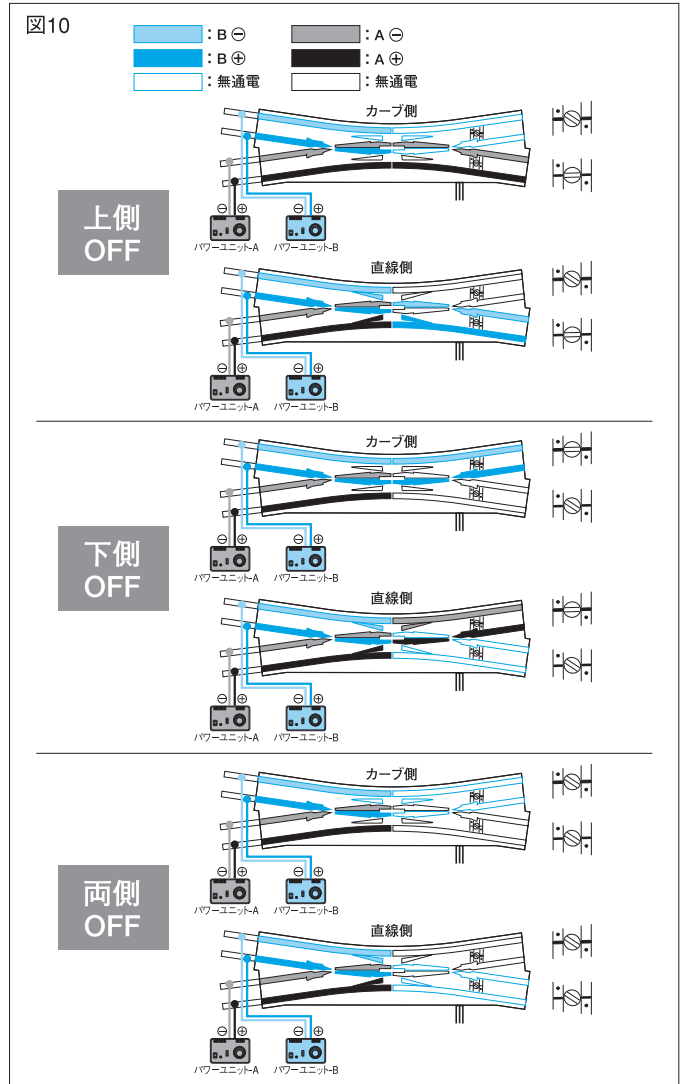
注意:逆差し防止リブは配線を簡単にし、誤配線を防ぐために付けられています。リブをカットした場合には、挿入の向きに十分注意してご使用ください。また誤配線を防ぐため、必要な場合以外には絶対にカットしないでください。間違い防止のため、延長コードのコネクターのリブカットはしないでください。



●ギャップスイッチの使い方

通常の場合はギャップスイッチは使用しません。必要以外は操作しないでください。

図10はギャップスイッチをOFFにした場合のポイント方向と電流の関係を示しています。



※イラストなどは製品と一部異なる場合があります。

修理が必要な場合、あるいは故障箇所が不明なときは、お買い上げ店にご相談ください。

また、トミーテックへお問い合わせの場合は、

トミーテックお客様相談室 トミックス係

TEL : 03-3695-3161(代) までご連絡ください。

電話受付 月～金曜日(祝・休日除く) 10～17時

本製品のお客様サポートは日本国内でのご購入かつ日本国内からのお問い合わせに限ります。

(Customer service is only available in case this product purchased in Japan and inquired from Japan domestic.)

TOMYTEC 発売元
株式会社トミーテック

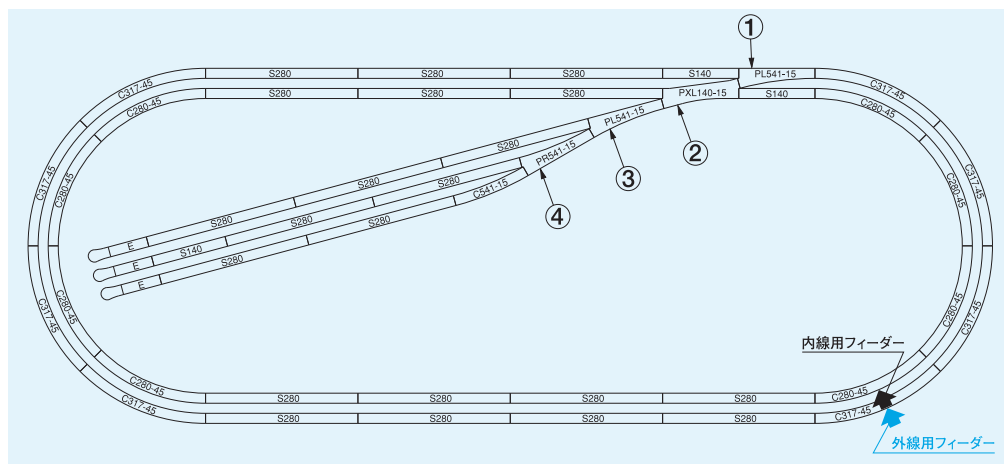
〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10

2025/10 更新版

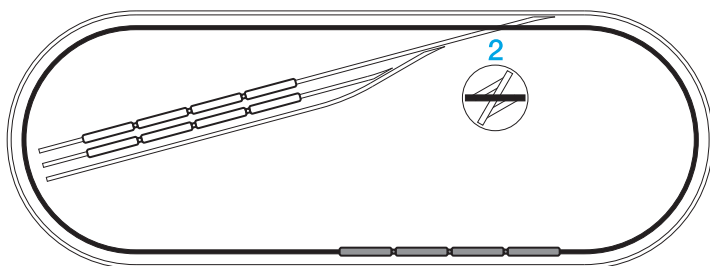
電動ダブルスリップポイントを使ったレールプランと運転例

1

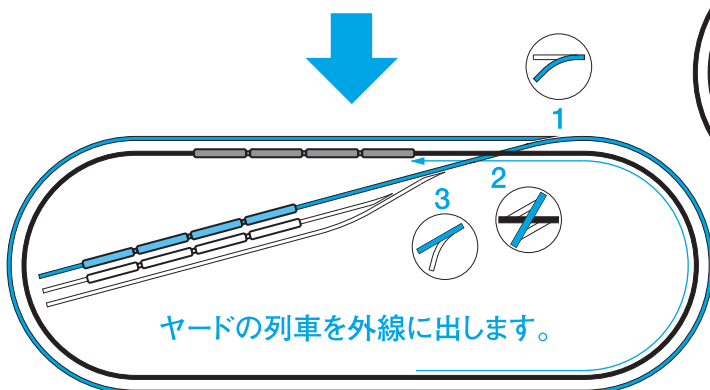
複線の本線からヤードを追加したレールプラン



複線のエンドレスレールにヤードを追加して、内線・外線から直接進入させ留置させたり、別の列車を本線へ出したりしながら、変化のある運転をする。

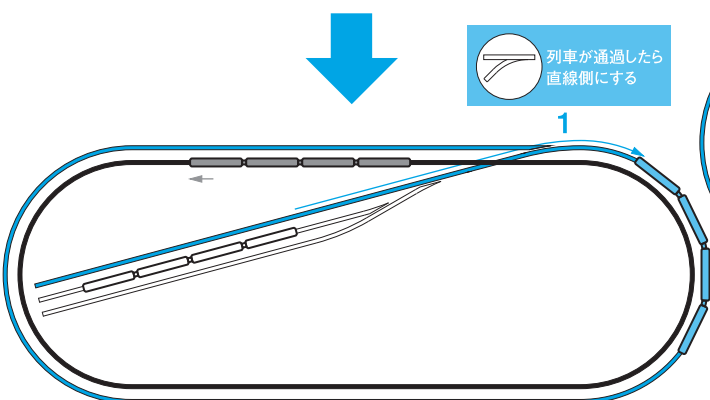


内線に1列車とヤードに2列車を置きます。2番のダブルスリップポイントを直線側に切り替え、内線の列車を走らせる準備をします。

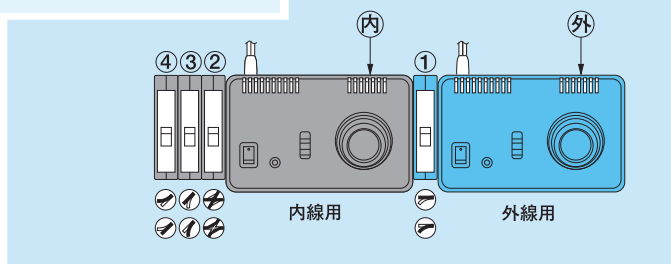
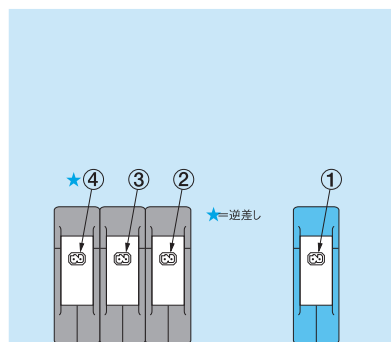


ヤードの列車を外線に出します。

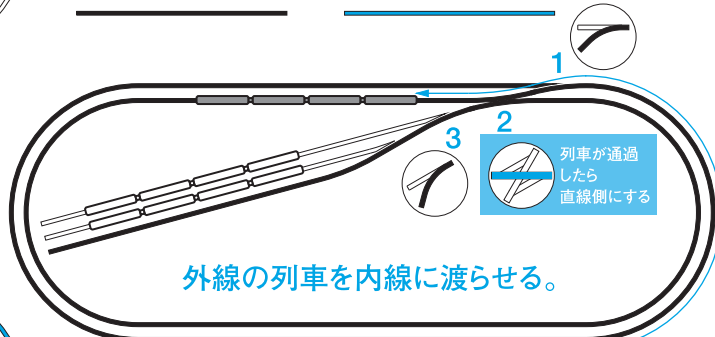
内線の列車を内線用パワーユニットでエンドレス運転をします。3番のポイントを直線側に、1番のポイントをカーブ側に切り替え準備します。



内線の列車と衝突しないよう注意して、外線用のパワーユニットでヤードの列車をダイレクトに外線に出します。ヤードの列車が右上の1番のポイントを通過したらすぐに直線側に切り換え、外線の列車はそのまま外線用パワーユニットでエンドレス運転をします。

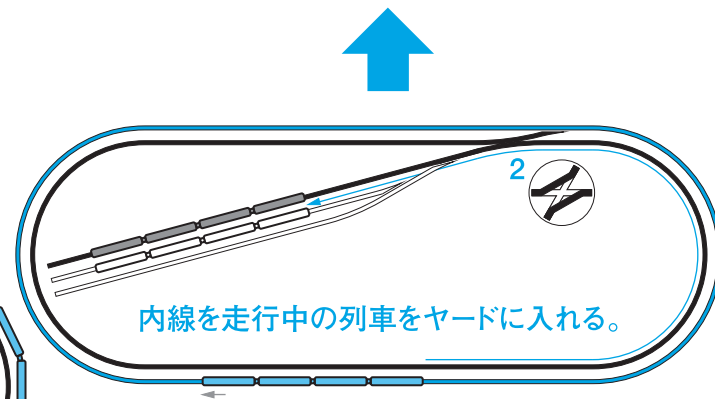


●内線用パワーユニット ●外線用パワーユニット



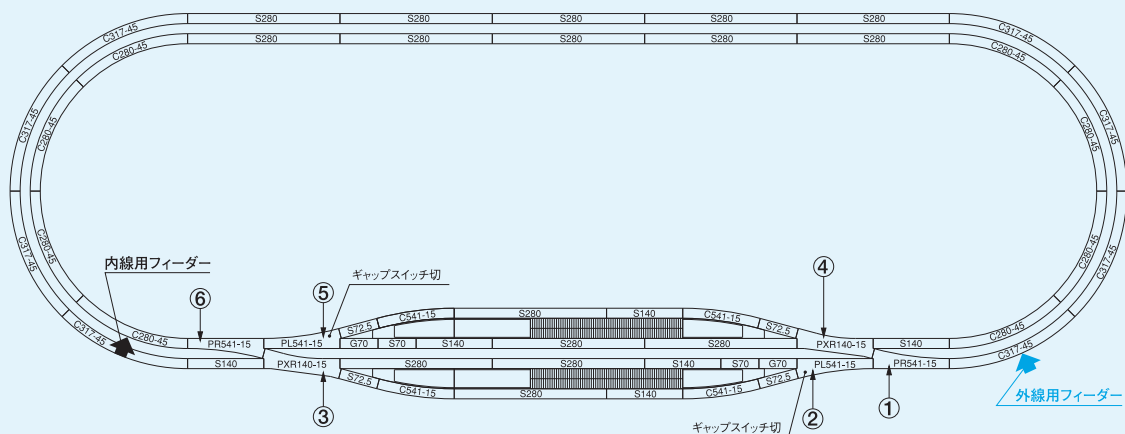
外線の列車を内線に渡らせる。

ヤードの列車が走行しないよう、3番のポイントを空いているヤードに切り替え、外線用パワーユニットのディレクションスイッチを中立にして右上の1番のポイントと2番のダブルスリップポイントをカーブ側に切り替えて、内線用パワーユニットで列車を走行させて渡らせませす。列車が渡り終わったら、2番のダブルスリップポイントと右上の1番のポイントを直線側に切り替え内線をエンドレス運転します。



内線を走行中の列車をヤードに入れる。

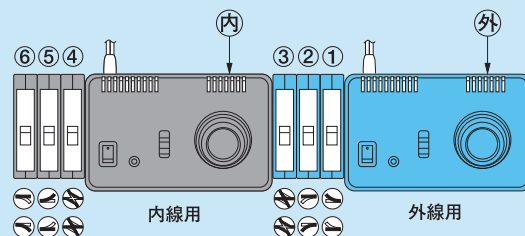
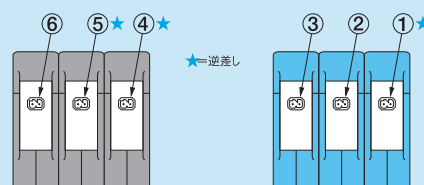
2番のダブルスリップポイントをカーブ側に切り替え、内線用パワーユニットでヤードに列車を入れ、停止させます。



一般的によく見られる島式ホームで内線、外線と、待避線のある大型駅です。

列車の追い越しや入れ替え運転をします。

●内線用パワーユニット ●外線用パワーユニット

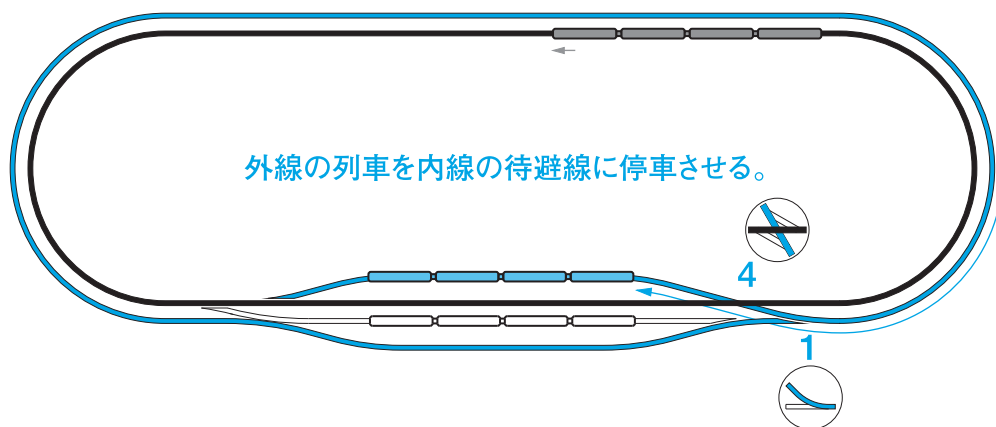


外線本線の列車を運転する。

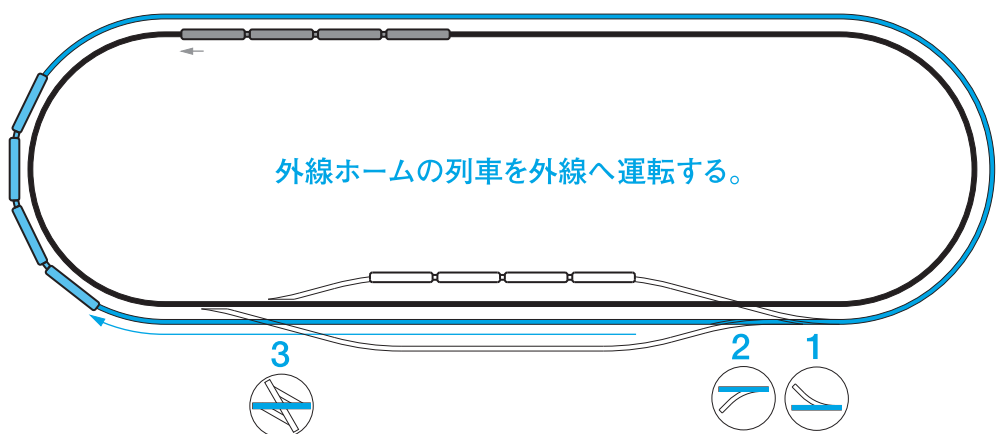
図のようにそれぞれ列車を置きます。外線の1・2・3番のポイントを直線側にし外線の列車を走らせる準備をします。



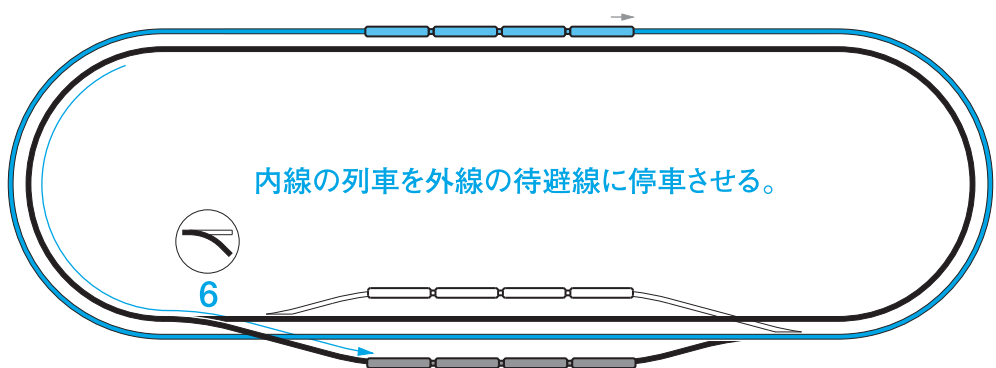
次ページ
内線待避線の列車を運転する。
に続く。



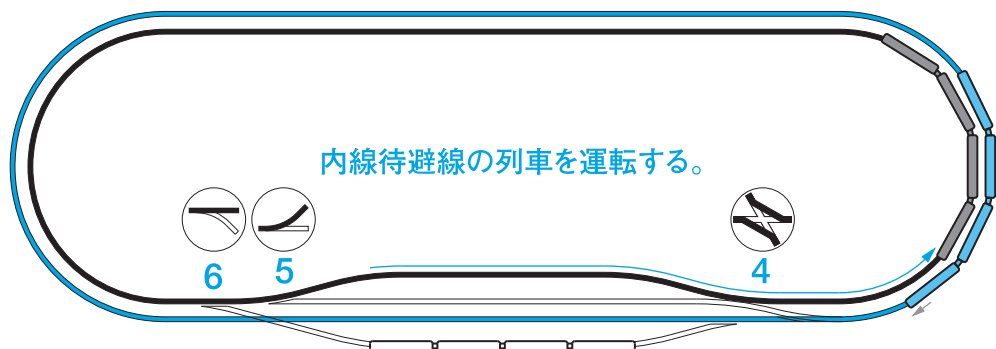
右側の1番のポイントをカーブ方向に切り替え、内線の列車に衝突しないように注意して、外線走行の列車を外線用パワーユニットで内線の空いているホームに入れ停車させます。



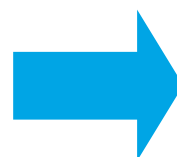
右側の1番のポイントを直線側に切り替え、右側の2番のポイントと左側の3番のダブルスリップポイントを直線側に切り替えます。外線の列車を外線用パワーユニットで出発させ、外線をエンドレス運転させます。



左側の6番のポイントをカーブ方向に切り替え、外線の列車に衝突しないよう注意して、そのまま内線用パワーユニットで外線の待避線に入れ、停車させます。

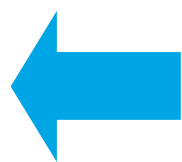


外線のパワーユニットで外線列車のエンドレス運転をします。次に内線の4・5番のポイントをカーブ側に6番のポイントを直線側に切り替えて内線用のパワーユニットで内線列車のエンドレス運転をします。



次ページ
外線の列車を内線のホームに停車させる。
に続く。

左側の6番のポイントを直線側に切り替え、右側の4番のダブルスリップポイントと左側の5番のポイントを直線側に切り替えます。内線の列車を内線用パワーユニットで出発させ、内線をエンドレス運転させます。



上記運転操作後
前ページ

外線の列車を
内線の待避線
に停車させる。
に続く。



内線ホームの列車を運転する。



内線の列車を外線のホームに停車させる。



外線待避線の列車を運転する。



外線の列車を内線のホームに停車させる。



左側の6番のポイントをカーブ方向に切り替えます。外線の列車と衝突しないよう注意して内線走行の列車を内線用パワーユニットで外線の空いているホームに入れ停車させます



つぎに外線待避線に止まっている列車を外に出す準備をします。右側の1番のポイントを直線側に切り替え、右側の2番のポイントと左側の3番のダブルスリップポイントをカーブ側に切り替えます。外線の列車を外線用パワーユニットで出発させ、外線をエンドレス運転させます。



右側の1番のポイントをカーブ方向に切り替え、内線走行の列車に衝突しないように注意して、そのまま外線走行の列車を外線用パワーユニットで内線の空いているホームに入れ停車させます。